



各科・室配布済

唐津屋形石の鮪網漁(18世紀後期)
『肥前国産物図考』(佐賀県立博物館蔵)

定置網は、海中に固定された網で魚介類を取る漁法です。

平戸市周辺では約三百年前から、鮪などを取る大規模な定置網が行われ、現在も四季を通じてさまざまな魚介類が取られています。

シンポジウムでは、定置網の漁法はどのように始まり、各地に伝わったのか、各地域で定置網漁はどのような役割を果たしてきたのかなど様々なテーマで、各地で研究に取り組む研究者が報告と討論をおこないます。

定置網の歴史と文化を探る

シンポジウム

平成29年
12月10日(日)

入場
無料

場所 平戸市生月町中央公民館 3階講堂
平戸市生月町沓部浦91

時間 12時30分～16時50分

プログラム

- 基調講演「台網から大敷網へ」小境卓治(氷見市立博物館 前館長)
- 各地の定置網に関する報告
- パネルディスカッション

パネラー

- 〔パネラー〕 小境卓治:氷見市立博物館 前館長
- 〔パネラー〕 川島秀一:東北大学 教授
- 〔パネラー〕 橋村 修:東京学芸大学 准教授
- 〔パネラー〕 井之本泰:京都府立丹後郷土資料館 元資料課長
- 〔コメンテーター〕 舩田大作:長崎県総合水産試験場 主任研究員
- 〔コーディネーター〕 中園成生:平戸市生月町博物館・島の館 学芸員

【関連行事】企画展「漁業の歴史と文化」

10月7日～12月10日 島の館・企画展示室



平戸生月島の鮪網漁(18世紀後期)『画図西遊譚』(島の館蔵)

主催:平戸市 共催:平戸市教育委員会
後援:総務省・長崎県定置漁業協会・生月漁業協同組合・館浦漁業協同組合・生月町文化協会・西日本新聞・長崎新聞・平戸市博物館連絡協議会

【お問い合わせ】平戸市生月町博物館・島の館 〒859-5706 長崎県平戸市生月町南免4289-1 (TEL)0950-53-3000 (Email)isana@city.hirado.lg.jp

自治総合センター
助成事業

定置網の【謎】に迫る

定置網は長崎県の沿岸漁業を代表する漁法です。沿岸で行われるので漁の様子を見る機会も多く、四季を通して操業され、季節の様々な魚介類を提供してくれる、身近な漁の一つです。

そんな定置網ですが、いつごろ始まり、どのように伝わったのか、昔の網の形はどんな形で何を取っていたのかなど、改めて考えるとたくさんの「謎」があります。

今回のシンポジウムでは、日本列島の各地で漁業や漁村の歴史・民俗を研究され、定置網について詳しい4名の先生方にご登壇いただき、定置網について熱く語っていただくなかで、定置網の謎に迫っていきたいと思います。海や漁業に興味や関心がある皆さん、ぜひ話を聞きに来てください。

シンポジウム「定置網の歴史と文化を探る」の登壇者の方々

〔パネラー・基調講演〕



小 境 卓 治

(水見市立博物館 前館長)

1951年、富山県生まれ。専門は民俗学。水見市立博物館に開設準備より携わり、開館後、学芸員として勤務（現在も）。2015年には館所蔵「水見および周辺地域の漁撈用具」が国登録有形民俗文化財となる。越中・能登の定置網の歴史、漁業習俗、漁村の暮らし、祭礼行事を研究

〔著書・論文〕

- ・日本海学研究叢書「台網から大敷網へー富山湾の定置網の歴史と漁撈ー」2006、富山県・日本海学推進機構
- ・「近世越中瀬浦と水見浦の台網の歴史－史料にみる台網の歴史の再検討－」
- ・「水見市立博物館年報」第14号、1996、水見市立博物館
- ・「漁村の民俗」【新修 七尾市史】13民俗編、2003、七尾市役所 ほか

〔パネラー〕



橋 村 修

(東京学芸大学 教育学部 准教授)

1972年、鹿児島県生まれ。専門は歴史地理学、生態民俗論。國學院大學大学院博士課程修了（博士・歴史学）。国立民族学博物館研究員などを経て現職。中世以降の漁場利用の変化（九州西海岸等）、シイラなどの回遊魚利用の比較文化史、有明海の養殖漁業、トサカノリ漁などを主に研究

〔著書・論文〕

- ・「漁場利用の社会史」、2009、人文書院
- ・「回遊魚の利用をめぐる環境史」【日本列島の野生生物と人】世界思想社、2010
- ・「地中海マルタにおけるシイラ漁業と沖合集魚装置漁業」
- ・「国際常民文化研究叢書」1、2013 ほか

〔パネラー〕



井之本 泰

(京都府立丹後郷土資料館 元資料課長)

1951年、京都府舞鶴市生まれ。京都府立丹後郷土資料館に勤務しながら、京都府北部（丹後地方）の漁撈調査や紡織の調査に従事

〔著書・論文〕

- ・（共）「丹後ブリ大敷網導入前後」
- ・「海の民俗文化－漁撈習俗の伝播に関する実証的研究－」、2005、明石書店
- ・「丹後袖志冬物語－海の紙漉き「若ノリ漉き」－」
- ・「季刊東北学」第5号、2005、柏書房 ほか

〔パネラー〕



川 島 秀 一

(東北大学 災害科学国際研究所 教授)

1952年、宮城県気仙沼市生まれ。文学博士。専門は民俗学。法政大学社会学部社会学科卒業後、東北大学附属図書館、気仙沼市史編さん室、リアス・アーク美術館、神奈川大学（特任教授）勤務を経て現職。東北の民間信仰や漁労民俗を主に研究

〔著書・論文〕

- ・「漁撈伝承」（ものと人間の文化史109）、2003、法政大学出版局
- ・「追込漁」（ものと人間の文化史142）、2008、法政大学出版局
- ・「魚を狩る民俗」、2011、三弥井書店
- ・「津波のまちに生きて」2012、富山房インターナショナル
- ・「海と生きる作法」2017、富山房インターナショナル ほか

〔コメンテーター〕



舛 田 大 作

(長崎県総合水産試験場 主任研究員)

1976年、長崎県有川町（現；新上五島町）生まれ。長崎大学水産学部卒業後、長崎県に入庁。県内水産業普及指導センターを経て現職。定置網等の沿岸漁業技術支援、県内重要資源の資源評価の業務を担う。

〔著書・論文〕

- ・（共）「LED集魚灯試験から推定されたケンサキイカとスルメイカの操業時に必要とされる消費電力の違い」【日本水産学会誌】83、2017、日本水産学会
- ・「定置網漁業の漁獲向上技術に関する研究」、2015、長崎大学大学院水産・環境科学総合研究所
- ・（共）「垣網前面に水中灯を装着した定置網周辺の魚群行動」
- ・「日本水産学会誌」81、2015、日本水産学会 ほか

〔コーディネーター〕



中 園 成 生

(平戸市生月町博物館・島の館 学芸員)

1963年、福岡市生まれ。熊本大学文学部（民俗学研究室）卒業後、佐賀県、呼子町教委を経て現職。捕鯨史、かくれキリシタン信仰の他、平戸市内の漁業、民俗を研究

〔著書・論文〕

- ・「くじら取りの系譜」、2001、長崎新聞社
- ・（共）「鯨取り絵物語」、2009、弦書房
- ・「かくれキリシタンとは何か」、2015、弦書房 ほか